
富山化学における 今回の戦略的提携の位置づけ、狙い

2008年2月13日

 富山化学工業株式会社

代表執行役社長 菅田益司

製薬メーカーを取り巻く環境

新薬の創出数の減少

- ▶ 開発コスト及び時間の拡大
- ▶ 創薬技術の高度化
- ▶ 開発のグローバル化による規制の強化

国内市場の低迷

- ▶ 医療費抑制策による医薬品市場の停滞
 - 薬価引き下げ
 - ジェネリック医薬品の拡大
 - DPC等の医療包括化への移行

富山化学の強み

①高い研究開発力

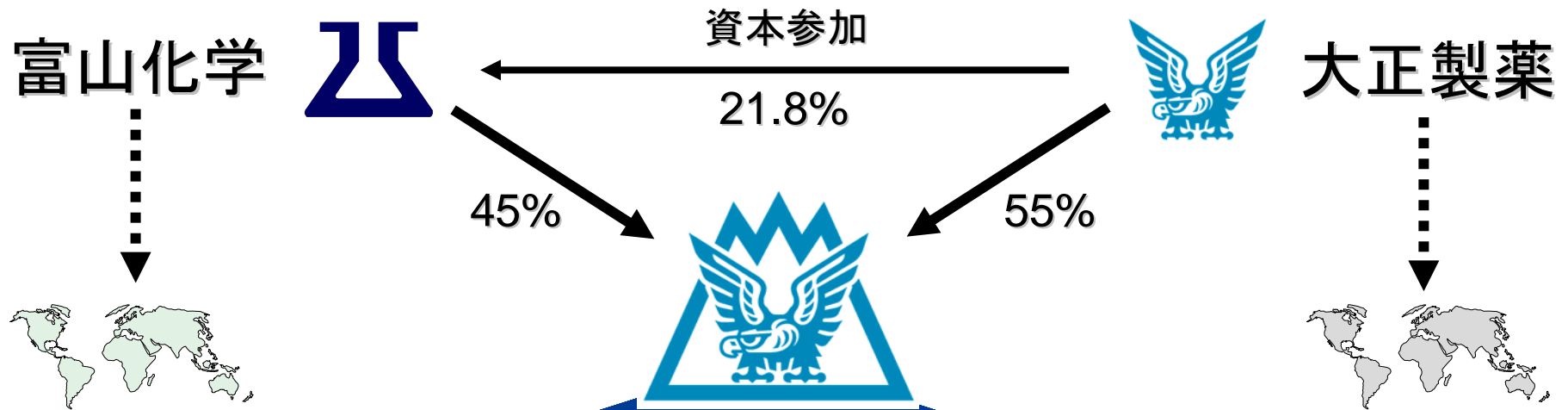
- ・開発パイプラインに数多くの有望な新薬候補を保有

開発番号	薬効	特徴
T-705	抗ウイルス剤	抗インフルエンザウイルス剤。ウイルスのRNAポリメラーゼに作用し、ウイルスの複製を阻害する。鳥インフルエンザA(H5N1)型に有用性が期待できる。
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	強い神経細胞死抑制作用を持つ。また、神経突起進展促進作用も有しており、病態モデルで優れた有効性を示している。

- ・その背景にある自由闊達な風土とプロフェッショナル集団

②世界的な企業に対する多数の開発品導出実績

これまでの大正製薬との提携



大正富山医薬品株式会社

医療用医薬品における国内販売およびマーケティング

3社による提携の背景

富山化学がパートナー企業との連携によって目指すもの

- ▶ 新技術の活用による革新的新薬の継続的創出

- ▶ 海外同時開発のための資金調達

- ▶ 国内販売の更なる強化

- ▶ 共同生産、共同購入等による製造原価低減、共同生産体制による効率化とリスク回避

- ▶ ブランド、インフラ及び資金力を活用した海外自社開発・自社販売の実現

技術力、資金力、コスト・シナジー及び海外展開が見込める企業との提携

製薬メーカーとして新たな成長ステージへ

提携のメリット1

①富士フィルムグループ保有技術の活用による新薬開発力強化

富士フィルムグループが保有する技術・マンパワーを活用した新薬開発のスピードアップと付加価値の高い医薬品の提供が可能

富士フィルムグループ保有技術

各種診断技術、解析技術、FTD (Formulation, Targeting, Delivery) ナノ乳化分散技術、薄膜形成技術、精密合成技術、RI標識抗体技術、コラーゲン技術など

②大正富山医薬品における国内販売の拡大

継続的な革新的新薬の創出による売上拡大、ナノ技術による吸収効率向上や既存薬のDDS製剤化の実現などによる既存薬のライフサイクル延長・売上拡大が可能

提携のメリット2

③第三者割当増資による資本の充実

新薬開発費用・創製研究などに約200億円、新製品原薬製造設備費用などに約100億円の充当が可能

④協働による生産体制の強化と効率化

外注品の内製化の実現による生産体制の効率化、両社の合成技術の融合による収率向上やコストダウンの実現、資材等の共同購入によるコストダウンの実現、災害リスク分散体制の構築などが可能

⑤海外自社開発・自社販売による利益の最大化の実現

富士フィルムグループの海外インフラを活用した海外販路の構築により、T-817MA等の海外での自社開発・自社販売が可能

3社の提携のまとめ

技術の融合

リスク回避

資金の調達

利益構造の転換

・・・の4つが同時に実現できる